

2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	メディア	学科
担当科目	佐伯ゼミ 1~3 回生ゼミ		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期に引き続き、佐伯ゼミのチューター業務を担当した。春学期は就職活動も引き続いていたこともあり、バタバタしていたが、秋学期はその忙しさも落ち着き、春学期よりも積極的に業務に携わることができた。通年ということもあり、後輩たちとも馴染み、授業前に雑談をしたり、研究や就職活動などの相談にもものることがあったりと、授業時以外にも楽しい時間を過ごすことができた。また、授業時にも、春学期に引き続いて、発言しやすい雰囲気作りに努めたため、多くの後輩たちが積極的に発言してくれた。いつも賑やかなゼミになり、毎回とても楽しみだった。

春学期、秋学期の1年弱を通して、1回生には、ゼミで学ぶスタイル、例えば、講義とは違う、自らアクションを起こして学ぶ姿勢を伝え、2回生には、これまで講義で学んできたことを踏まえた、自分自身のアイデアを伝えることの大切さを伝え、3回生には、卒業論文に向けて、具体的な研究の方法や、私自身の研究について伝えた。いずれのクラスにおいても、常に心がけていたのは、「楽しさ」である。つつい眠くなってしまいがちな昼下がりの授業でも、自ら意見を伝えることによって、またつつい面白くて笑ってしまうことによって、眠気はなくなってしまふ。ゼミの雰囲気をカジュアルにし過ぎない程度に、常に笑いを添え、その流れで、普段はなかなか発言しにくい後輩にも、話しやすい雰囲気を作ったり、異なる意見を伝え合って、新たなアイデアが生まれたりもした。持ち前の雑学や、ちょっとした情報などをタイミング良く出すことで、後輩たちにとって、新たな視点への転換や、研究へのヒントにつながるものがあったと思う。先日、ある後輩に、私の斬新なアイデアによって刺激を受けたと言われ、とても嬉しかった。時々、雑談が盛り上がってしまって、話題が脱線してしまうこともあったが、それもゼミの良さであろう。また、どんな余談でも、メディアやジェンダーに関係していることに気付き、話が盛り上がっている後輩たちの発言を聞いていると、その問題意識の高さに驚くこともあり、今後の発展が楽しみだと感じる。

来月に卒業を控え、この1年を振り返ると、このチューター業務は、私にとって大きな学びになったと思う。後輩とのコミュニケーション、模範発表、発表後のフィードバックなど、どれも、これから役に立つスキルとして身に付いたであろう。後輩たちに会えなくなるのは正直寂しいが、私が少しでも彼らの今後にとって役に立つことができたのなら幸いである。

<今後のチューターまたは先生への提案>

毎回チュータリングシステムに活動報告を入力しているが、なかなか自分自身の成果や成長を感じにくいように思われる。「良識」や「協調」などといったポイントがたまっていくのは分かるが、あくまで自分自身の基準であり、他人の評価ではない。毎回の業務について、先生からのフィードバックがいただければ、反省すべき点や、成長した点などが分かり、次の業務に活かせるのではないかと思う。また、チューター同士のコミュニケーションが実質ないのも勿体ない。ミーティングボードにおける他のゼミのチューターとの情報交換や、他のチューターの活動報告の参照など、システムを有効活用したコミュニケーションがあれば、より発展した業務が行えるだろう。